～土俵に込める思いと次の一手～ 下村勝彦と焼津の相撲



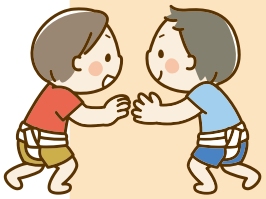
下村　勝彦さん

焼津市生まれ
静岡県相撲連盟会長
焼津市スポーツ協会会長

子どもの頃から相撲が身近にあり、多くの出会いと経験を重ねてきた下村さん。
焼津の土俵の歴史を振り返りつつ、地域の教室でどんなものを大切にし、どのように次世代へつないでいきたいのかを伺いました。

Q 相撲との出会いについて教えてください。

A 父が相撲をしていたことがきっかけで私も始めました。
子どもの頃から相撲が身近にあり、続ける中で、
たくさんの人と出会い、さまざまな経験をしてきました。





世界少年相撲大会の優勝園児

Q 女性が相撲に参加するようになった当初、周囲の反応はいかがでしたか？

A 相撲は長く「女人禁制」というイメージがあり、女性が土俵に上がることへの理解は、すぐに進んだわけではありません。国技館でも、女子大会はなかなか開催してもらえないという状況があります。それでも現在、女子相撲は 84 か国に広がり、約 3,000 人が競技しています。相撲は男性だけのものではありません。女性にももっと相撲に親しんでもらい、女性が参加できる大会や環境を増やしていきたいですね。

Q 焼津市の相撲には、どのような歴史がありますか？

A 昔の焼津には、青木神社や昭和通り、神武通りなど 8 か所ほどに土俵がありました。地域の中に土俵があり、子どもたちや地域の人たちにとって、相撲はとても身近な存在だったんです。その後、焼津水産高校にも土俵ができましたが、大きな大会を開催するには手狭になり、現在の焼津神社の横に土俵が整備されました。大きな大会もできるし、焼津神社の横なら奉納相撲もできる。そういう場所として、今の土俵ができました。



世界少年相撲大会の入賞選手たち

Q 相撲教室では、どのようなことを大切にしていますか？

A 強い子だけが集まる場所にはしたくありません。相撲を通して友達をつくったり、仲間と一緒に頑張ったり、さまざまな経験をしてほしいと思っています。スポーツには、勝ち負けだけではなく、人とのつながりや努力することなど、そこから学べることがたくさんあります。相撲を通して得た経験を、将来それぞれの場所で生かしていってほしいですね。



Q 今後の目標や夢を教えてください。

A 夢は、相撲をオリンピック競技にすることです。そのためには、女性の参加をもっと増やし、男女がともに競技を楽しめる環境をつくることが大切です。女子の大会を増やし、競技人口を広げ、世界的なスポーツとして認められる規模にしていきたい。そして、伝統を大切にしながら、相撲の新しい未来をつくっていきたいと思っています。